

西おきたま 米づくり情報 No.10

令和6年7月22日

西置賜農業技術普及課

出穂は平年並～やや早まる見込み！高温時の水管理「飽水管理」「間断かん水」で根の活力維持を図りましょう。

斑点米カメムシ類多い！斑点米カメムシ類防除を徹底しましょう。

1 今後の水管理の重要ポイントチェック！

- 出穂までは間断かん水（2日湛水・2日落水）を維持し、根の活力を維持する。
- **穂揃期頃は最も水分を必要とする時期**のため、湛水状態を保ち、水を切らさない。
- **水のためっぱなしはしない。**

（土壌の還元が進み、根へのダメージ大）

- **高温時は、「飽水管理」や「間断かん水」**で水田の水温と地温を下げるような水管理により根の活力を維持する。

※高温年の水管理のイメージについては、裏面をチェック！

1か月予報

（7月18日 仙台管区气象台発表）

気温：7/20～7/26：高い見込み

7/27～8/2：高い見込み

8/3～8/16：高い見込み

降水量：平年並～多い見込み

日照時間：少ない見込み

2 斑点米カメムシ類の発生：多い！

- 高温年は登熟後半の発生量の増加に注意が必要です。
- 斑点米カメムシ類の基本防除は、「穂揃期」と「穂揃期の7～10日後」の2回です。適期防除を実践しましょう。
- 基本防除後に水田内のすくい取り調査を行い、発生が確認された場合には、「2回目防除の7～10日後」に追加で防除を行いましょう。



アカゲホドリカメムシ



アカスジカスミカメ

3 いもち病は早期発見！早期防除！

- 葉いもちが発生したほ場では、治療効果のある薬剤（ブラシン剤、トライ剤、カスミン剤等）で防除を行いましょう。
※特別栽培の場合、使用できる農薬が生産計画で決まっているため、確認が必要です。
- 穂いもちの基本防除は「穂孕後期」と「穂揃期」の2回です。葉いもちの発生が多いほ場では、「穂揃期の7日後」にも防除を行いましょう。
- 紋枯病は、穂孕後期と出穂期の2回、発病調査を行い、防除の要否を判断しましょう。
- 昨年、**稲こうじ病の発生が見られたほ場では、出穂20～10日前に薬剤防除**を行いましょう。



葉いもちの病斑

！農作業事故・熱中症に注意！

！山形県農薬危害防止運動実施中！

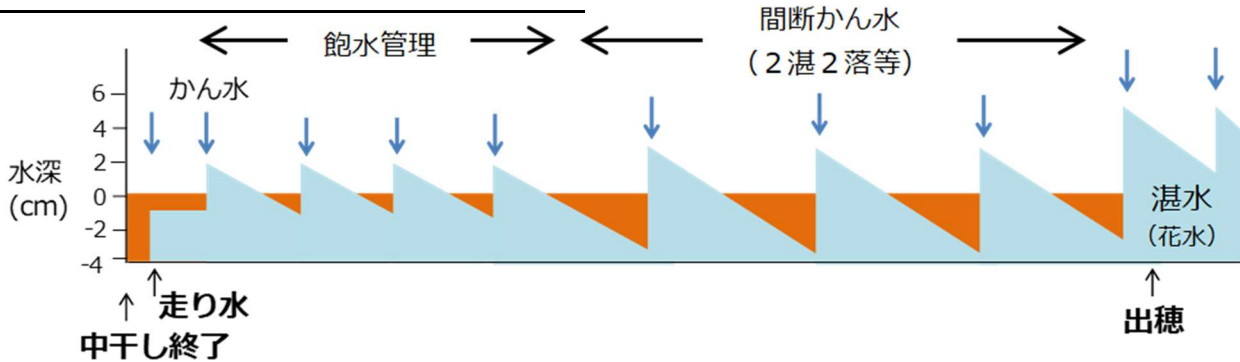
使い慣れている農薬でも、使用前にその都度必ずラベルを確認し、希釈倍数等の使用基準や使用上の注意事項を遵守しましょう。



高温年の水管理のイメージ

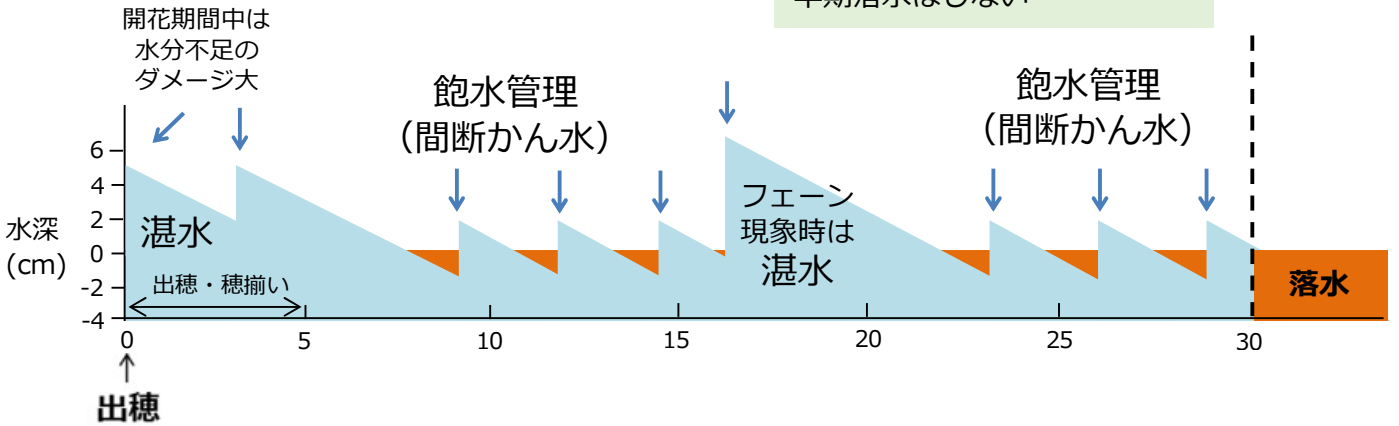
水のためっぱなしはダメ！

(1) 中干し終了～出穂まで

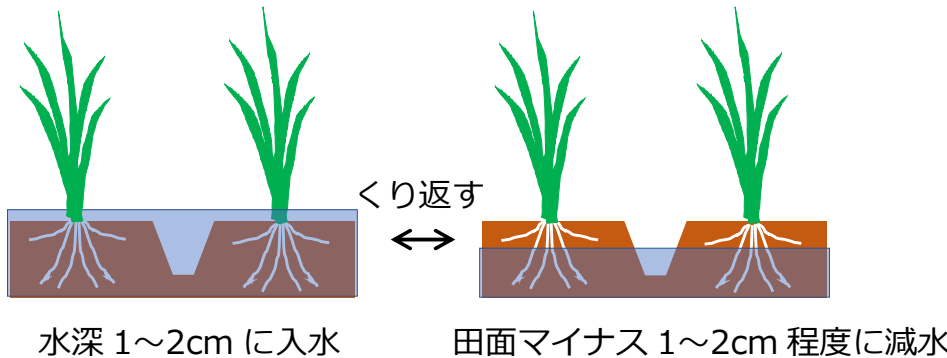


(2) 出穂期以降

出穂後 30 日間は水を入れ、
早期落水はしない



【飽水管理のイメージ】



- 「飽水管理」とは、地表（田面）に水は無いが、くぼみには溜まっていて、土壌が常に湿潤状態に保たれている状態です。
- 湛水管理と比べて、夜間の地温が 0.5℃程度低くなります。
- 土壌を酸化的に保つことができ、根の活力が維持されます。